

湘南藤沢メディアセンター

1階オープンエリア夜間開放の試行

さとう やすゆき
佐藤 康之

(湘南藤沢メディアセンター事務長)

1 はじめに

湘南藤沢メディアセンター（以下「メディアセンター」とする）では、2019年7月と2020年1月の2期に渡り、メディアセンター1階にあるオープンエリアの夜間開放を試験的に実施した。本稿では、この経緯と目的、実施中の様子や評価、本格運用への課題について報告する。

2 経緯と目的

湘南藤沢キャンパス（以下「SFC」とする）は1990年の創設当時から「24時間キャンパス」が標榜され、事前に届を提出して科目担当教員の許可を得ることにより、学生が終夜に渡りキャンパスの教室や研究室で正課の活動を行うことができる「夜間残留」という制度が運用されている。この制度は一定数の学生の支持を受けているが、ICT環境の進展や学生の志向の変化などで、残留者の数は年々減少している。

一方、SFCで継続的に検討が進められていた「未来創造塾」の姿が見えてきた2017年、周辺の地域を含むキャンパス構想協議において、既存キャンパスの環境改善計画の一つとして、夜間残留する学生の安心・安全な場所の確保が議論された。この中で、運用の効率面もありメディアセンターの1階が候補場所に上がり、1～2年の中期的な計画として検討されることになった。これは「滞在型キャンパス」を指向する「未来創造塾」における取り組みを既存のキャンパスの中でも展開しようとする試みでもある。

この経緯から明らかなように、夜間開放の試行目的はメディアセンターのサービスを24時間化することではなく、メディアセンターの施設をサービス時間外にキャンパスに残留する学生たちのために活用できないか、そのための検証を行うことが出発点となっている。メディアセンターとしてもオープンエリアの利活用を再検討する機会にもなり、特にSFC

における「コモンズ」の役割を担う視点からも、キャンパスの管財担当との共同事業として試行に取り組むことになった。なお、前述の環境改善計画ではΣ館¹⁾（厚生棟）におけるコンビニエンスストアの設置や「鴨池ラウンジ」の24時間化を視野に入れた改装も提案されている。

3 準備

オープンエリア夜間開放の試行は、2019年5月の「キャンパス戦略委員会」においてメディアセンターと管財担当との共同提案として、グループワークスペースなどの学習環境が整っていること、一か所でもまとまった広さの夜間残留場所を提供することで賑わいや連携につながる点が利点として示され、具体化に向けて動き出すことになった。

まず、試行の時期として2019年7月と2020年1月の二段階で実施することを決定した。前者はメディアセンターの入館統計から春学期において多くの学生がキャンパスにいる時期であること、後者は秋学期中で最も夜間残留者が多くなる時期であることを考慮した。

また実施の条件として、以下の内容をキャンパスおよび管財担当と調整して取り決めた。

- ・メディアセンター休館日には実施しない。
 - ・時間帯は閉館後の23:00から開館する翌9:15までとする。
 - ・開放する場所は1階オープンエリアのみとする。
 - ・実施中の秩序維持と安全確保のためにオープンエリア内に警備員1名、メディアセンター近接のA館¹⁾内にある中央監視室に設備員1名を配置し、空調も運転する。
 - ・入館時には、既存の入館ゲートでの認証と警備員による学生証および残留届の確認を併用する。
- なお、夜間開放中に利用できる設備はオープンエリアのほか同じく1階にあり飲食のできるラウンジ

のみとし、インフォメーションデスク（図1）や上下階への導線はベルトパーテーションなどで閉鎖することにした。このほか、広報用のポスター（図2）や当日の警備員向けマニュアルの作成、閉館時のスタッフから警備員への引き継ぎ、朝実施される館内清掃などを担当者間で調整して実施に備えた。



図1 閉鎖されたインフォメーションデスク



図2 広報ポスター
(左：2019年7月，右：2020年1月)

4 第一段階実施：2019年7月

第一段階は2019年7月8日（月）から19日（金）までの平日9日間に実施した。この間の入館者数は、学部生225名、大学院生4名、計229名である。

当初心配された騒ぎなどはなく、全体としては真面目に作業や勉強に取り組んでいる様子が見て取れた。また、残留する学生が多いほど見た目の安全性が高まることも確認できた。実施したアンケートには31件の回答があったが、それによると回答全てで「残留場所として今後もメディアセンターを利用したい」とされ、「研究室や特別教室²⁾」に比べて環境が良い」「パソコンに必要なソフトウェアが揃っている」など概ね好意的なコメントが寄せられた。特

に女性からは「ほかの人もたくさんいて安心」との声があった。また、要望としては「寝る場所」「(書架のある)2階以上の開放(本を読みたい)」との意見も寄せられた。なお一定の安全が確認できたため、実施期間の後半では休憩のため警備員不在の時間帯も設けたが、特に問題はなかった。

5 第二段階実施：2020年1月

第二段階は2020年1月6日（月）から29日（水）で、休館日前日、休館日および短縮開館日を除く15日間の実施となった。時間帯は前回と同様としたが、第二段階では管財担当と湘南藤沢インフォメーションテクノロジーセンターの協力を得て、オープンエリアの夜間開放試行期間に限り、従来、夜間残留時に学生がよく使用していた κ 、 ε 、 l 、 o 各館¹⁾の特別教室計4室を閉鎖した（ λ 館¹⁾の特別教室は利用可）。SFCでは2020年度からのBYOD（Bring Your Own Devices）の推進に伴い、パソコンのある特別教室の削減を計画していたが、これが夜間残留の際に問題とされないかを確認する意図もあった。

第二段階の入館者数は、学部生120名、大学院生9名、計129名となり、第一段階より期間は長かったが入館者数としては減少となった。キャンパス全体の残留数も少ないことから単に利用が少なかっただけと考えている。前回同様、全体としては真面目に作業や勉強に取り組んでいたが、未明からは机やソファで仮眠する学生が目立っていた。今回もアンケートには24件の回答があり、前回とほぼ同様の声が寄せられおおむね好評であった。今後の特別教室での残留については、「しない」と「する／どちらともいえない」が拮抗する結果となり、「特別教室は寝袋で寝やすい」という声もあった。なお、特別教室閉鎖自体への反対意見はなかった。



図3 深夜のメディアセンター入口（2020年1月）

6 本格運用への課題

二度にわたるオープンエリアの夜間開放の試行では、学生のニーズに応える取り組みであること、警備員を配置することにより一定の安全性が確保されることが確認できた。一方、いくつかの課題も明らかになった。

一つ目は外部侵入者に対する安全性の確保である。入館ゲートはあるが簡単に乗り越えられてしまう。SFCは街中から離れていて外部の人はあまり来ないので大丈夫との考えを前提にした対策は、やはり危険と思われる。より安全性を高めるためには、学生証・教職員証を兼ねるキャンパスIDカードを使用した侵入防止の仕組みが確保されるようメディアセンターの設備を見直す必要がある。

二つ目は夜間残留届の運用である。夜間残留届は学生・教職員間のコミュニケーションを支援するSFC独自のシステムSFC-SFSから事前に提出することになっているが、試行中の全期間を通して入館後に警備員へ手書きの届を提出する学生が多く、手続の実効性が薄れている。安全管理の面からキャンパスとしての手続の見直しのほか、事前申請を徹底させる仕組み作りも必要であろう。

三つ目は仮眠場所との住み分けである。夜間残留場所は仮眠場所ではないが、やはり未明になれば少し仮眠したいというのが学生たちの本音であろう。ただ、際限なく認めてしまうと環境や秩序を維持するのが難しくなり、仮眠する者の安全という観点でも問題と思われる。夜間残留のためには、どこかキャンパスのほかの場所で安全に休憩、仮眠できる場所を確保する必要がある。

最後は真冬に実施した第二段階で顕在化した結露の問題である。メディアセンターは比較的ガラスによる採光の多い建物だが、ここで一晩中暖房空調を使用するとおびただしい結露が発生し、今回もファブスペース³⁾付近の床が濡れるほどで(図4)、急遽、給水シートを設置して対応した。空調をどのように制御するかは悩ましい課題である。

これらの課題は今後、現時点でキャンパス環境改善計画を担当する「未来創造塾・遠藤ライフ委員会」で検討していくことになる。



図4 結露で曇るファブスペースのガラス
(2020年1月)

7 おわりに

第二段階が始まった直後の2020年1月15日、神奈川県で国内最初の新型コロナウイルス感染者が報告された。以来数か月、キャンパスの光景はすっかり変わってしまった。4月の新入生の賑わいはなく、オンライン授業への移行で学生をキャンパスで見かけることもない。メディアセンターも臨時休館を余儀なくされ、6月8日の一部サービス再開後も、夜間残留を試行したオープンエリアには使用禁止のテープが張られている。「滞在型キャンパス」や「夜間残留」は、この試行の本質的テーマだが、学生のいないキャンパスでは空しく響くばかりである。

SFCの学生たちはバーチャルなキャンパスに約8,000人が集う七夕祭を短期間の準備で成功させてしまった。そのバーチャル空間のモデルになっているのは紛れもなくリアルなSFCであり、学生たちの活力の源だと思う。今は再びキャンパス環境改善に光が当たる日が来るのを心待ちにするばかりである。

注

- 1) SFC内の建物。SFCではほとんどの建物にギリシャ文字の名称がついている。κ, ε, ι, ο, λの各館には教室や研究室がある。
- 2) PCを備えた教室
- 3) 3Dプリンタや3Dスキャナ, UVプリンタ, レーザーカッターなどを備えた, デジタル技術を使ったものづくりを体験できるスペース。1階入口に近いガラス壁に囲まれた場所にある。